



ワンメイクレースの場合 軽いだけではダメだった

今年のGR86、BRZレースのシリーズチャンピオンは、プロモクラフトマンもチーム・アセットが豊富だった。過剰な軽いであることが得られるワンメイクレースで、同チームがシリーズ優勝するのは意外なことだ。ドライバーの力量も重要なポイントのひとつだが、クルマのセッティングまでバリエーションが豊富にある。今後はチーム・アセットが「ワーキング・C.O.」でワンメイクレースを出走していることについて、なぜこのホイールをセレクトしたのか、チャンピオンドライバーの二人に聞いてみた。

佐々木雅弘選手

レース用ホイールとしては、最近では軽さ以外のホールド性も重視されています。ワーク・M.C.O.レーシング・チームのホイールは、ホールド性がある一方で、軽さも追求されているのは、プロモクラフトの特性だからなのかもしれません。ホイールは、セッティングも変わるタイプに入れかえるの用も使われています。それが必要なアイテムなんです。

GR86、BRZレースでは、朝顔



クラブマンシリーズ・シリーズチャンピオン
松原慎史選手

ホールド性が低すぎると、そんなときに曲がってあげて行かないように、曲がったときに直るような、ワーキング・C.O.レーシング・タイプCSはなかなかいいですね。もちろん軽い人にもおすすめです。レースでなくても、本に頼りに走るホールド性も必要です。

松原慎史選手

チャンピオンドライバーの二人は、最近ではGR86、BRZレースにおいて、ホイールの存在もかなり重要になっています。しっかりとホールド性がある、使いやすさもある、ワーク・M.C.O.レーシング・チームのホイールは、ホールド性がある一方で、軽さも追求されているのは、プロモクラフトの特性だからなのかもしれません。ホイールは、セッティングも変わるタイプに入れかえるの用も使われています。それが必要なアイテムなんです。

ルのはうがベクターだと思えます。



プロフュッショナルシリーズ・シリーズチャンピオン
佐々木雅弘選手
経験が多いGR86、BRZレースの場合、いくらか軽くても簡単に变形しちゃうようなホイールではダメです。

WORK M・C・O RACING Type CS

ワーク・エムシーオーレーシング・タイプシーエス

シリーズチャンピオンを獲得するために
このホイールが必要不可欠だった

専務 大野田 隆 | 写真 ● 飯部康典

■サイズラインナップ	SIZE	INSET	PRICE (税込カラー)
• 17inch (5x 98&112 RACE)	7.0x16	48	379,000円
• 17inch (F-FACE)	7.0x17		476,000円
• 18inch (F-FACE)	35_42_50		476,000円
• 18inch (F-FACE)	47		571,000円
• 18inch (F-FACE)	38_50		572,000円

※表記サイズは、PCD100、5Hの86&BRZ用を指称しました。
カラー：ブラッディレッド (BRD)、マットブラック (MBL)、ホワイト (WHT)



Wチャンピオンになったチーム・アセットの二人。マシンは、タイヤこそ違えども、ほとんど同じ仕様になっているというから驚かされた。

